


令和7年度PDCAサイクル(NST)




P

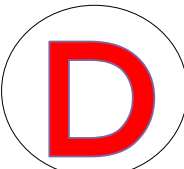
【問題点】
令和6年度診療報酬改定に伴い、GLIM基準による栄養スクリーニングを導入しているが、MUST実施後GLIM基準での判定をおこなう際、表現型基準には体重減少・低BMI・筋肉量減少が含まれており、体液貯留患者では体重およびBMIが過大評価され、若年でやせ型の患者では過小評価されている可能性がある。

【対策】
GLIM基準とCONUTスコアと合わせて評価することで、より精度の高いアセスメントが実施できると考えられる。

【計画】
精度の高い低栄養リスク患者の抽出方法を構築・実施し、リスクに合わせた栄養サポートをしていくことを目標とする。

- ・GLIM基準とCONUTスコアとの連携方法について検討していく。
(MUST・GLIM基準、CONUTスコア、長期入院患者、低ALB値患者をマルチスクリーニングする方法を検討してみる。)
- ・**CONUTスコアリストに上がる患者がGLIM基準でも低栄養判定となっているか否かを確認し、NSTヘビックアップする。**
- ・NST回診等において、抽出された低栄養リスクに合わせて適正な栄養サポートを行っていく。

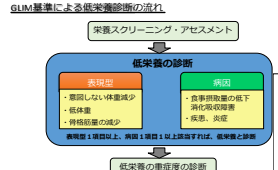




D

GLIM基準とCONUT評価の比較
対象期間：2025年6月2日から2025年11月4日
対象者：期間中当院入院患者（18歳以上 患者重複削除 N=2143）でCONUTを実施したGLIM基準評価がなされた患者482名を対象（男性276名、女性206名）
※重複患者は削除 ※入院期間はCONUT実施日まで※GLIM基準は入院時評価（一部別日）

GLIM基準による低栄養診断の流れ

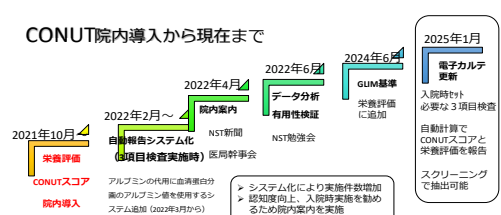


栄養評価『CONUTスコア』とは


- ・Controlling Nutritional status: コニュート
- ・一般的な検査項目のアルブミン(ALB)、総コレステロール(T-cho)、総リポタン(LTC)をスコア化し、3つのスコアを足して求める簡便な栄養評価の指標
- ・タンパク質、脂質代謝、免疫を反映し、正常、軽度、中等度、高度の4段階に評価 点数が多いほど栄養不良は重症化している

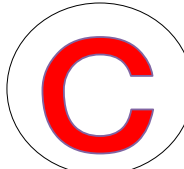
ALB (g/dL)	T-cho (mg/dL)	LTC (mg/dL)	CONUTスコア	栄養状態
4.0以上	200以上	150以上	0	正常
3.0以上	150以上	100以上	1	軽度
2.0以上	100以上	50以上	2	中等度
1.0以上	50以上	0以上	3	高度

CONUT院内導入から現在まで



依頼があれば自動計算 栄養不良レベル・CONUTスコアの2つを報告






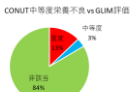
C

検討結果より
CONUT評価では高度栄養不良は入院日数も長く、死亡率、褥瘡発生率も高い傾向をみとめました。
CONUT評価が中等度から高度栄養不良でも、GLIMでは80~84%が非該当となり、逆にCONUTが軽度でもGLIM基準で8%が重症栄養不良と診断されています。
これは両者が見ている側面の違いを反映しています。
CONUTは検査データからの客観的スクリーニングであり、GLIMは体重減少などの表現型と食事摂取量低下などの病因からなる評価であるため完全一致しないこと自体が、両者の役割の違いを示しています。


CONUT高度栄養不良 vs GLIM評価




CONUT中等度栄養不良 vs GLIM評価



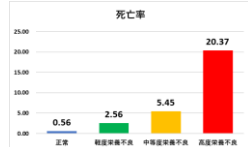
CONUT軽度栄養不良 vs GLIM評価




CONUT正常 vs GLIM評価




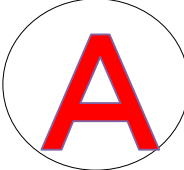
死亡率



褥瘡発生率







A

栄養スクリーニングの各指標の位置づけをまとめると
【CONUT】検査データに基づく客観的スクリーニング。入院時だけでなく入院期間中もCONUTスコアの変化を経時的に追うことで栄養状態の変化をとらえることが可能。
【MUST】看護師によるアセスメントの要素が強いツール。生活背景や摂取状態を拾える点が重要。
【GLIM】成人低栄養を診断するための国際的な診断基準。

- ・入院時栄養アセスメントの際、医師の主観的評価である栄養評価状態の評価には『CONUTスコア』を活用し参考にしてもらうのどうか。
- ・GLIMで重症と判定された症例は、1週間後に再評価を行い栄養管理計画を見直しているが、経過を追う際に『CONUT』も参考にできるのではないか。

